

平成4年度
(1992)
第32回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌清田

【 専門委員長 寸評 】

予想通りとはいえ、男子・札幌藻岩高校の完全優勝は圧倒的な強さであった。

旭川東も健闘し、第3位に入ったのは見事であった。シングルスでは、佐藤（札幌藻岩）が実力を発揮し、山田（札幌藻岩）に雪辱した。また奥野（札幌新川）が代表決定戦で接戦の末、本田（札幌藻岩）に一矢報いたことは、他校への励みとなった。札幌藻岩の3年連続、通算13回目の優勝は驚異的でもある。

女子は、接戦が続き、札幌地区優勝の札幌稲西高校が室蘭大谷高校に敗れた。番狂わせというよりは、地方の実力が確実についてきたことを意味するものであった。第2シードの札幌清田高校が9回目の優勝を飾った。札幌地区から優勝校がでたものの、第2位の旭川北高校、第3位の室蘭大谷高校、函館白百合高校が実力をつけて札幌勢に快勝したことは、今大会の最大の特徴であったといえる。もう一つの特徴は、1、2年生の活躍にある。優勝した佐藤（札幌藻岩）、第3位の本田（札幌藻岩）が2年生、第2位になった山田（札幌藻岩）、第3位の奥野（札幌新川）は共に1年生で、女子優勝の本田沙織（札幌稲西）もまた1年生だということである。

【 全国大会 】

男子団体優勝校の札幌藻岩はよく健闘し、3度目の全国ベスト8に入る殊勲。雪国のハンディキャップを考えると、誠にすばらしい成績である。

2回戦から出場した札幌藻岩高校は、ダブルスが敗れ、苦戦を強いられたものの、佐藤健一郎（2年生）、山田雅之（1年生）のシングルスが波にのり、2回戦突破を果たした。3回戦は第8位にシードされている市立静岡高校との対戦。実力は少し劣ると見ていたが本田雄大・伊藤崇弘のダブルス組が接戦の末勝利を収めると、シングルの佐藤も、これに応じて快勝。準々決勝の相手は今大会の第1シードで全国最多優勝を誇る福岡の柳川高校。善戦し、要所要所でレベルの高いプレーが発揮され、見ごたえある試合となった。残念ながら敗退したものの、テニスのレベルでは全国のトップクラスと遜色ないところまで来ている。

札幌藻岩高校の強みは、実力1位から3位まで1, 2年であることだ。来年度からシードされて、全国ベスト4位まで進むことも期待できる。より一層の精進を望みたい。

女子団体戦の札幌清田高校は、全国ベスト8常連の埼玉県の浦和学院とあたり、善戦したものの惜敗。ダブルスが接戦だったので、あの試合に勝てていれば波に乗って3回戦進出も期待できただけに残念である。

個人戦では、佐藤（札幌藻岩）の3回戦進出が特筆される。1年組の山田（札幌藻岩）が2回戦に進出し、奥野（札幌新川）も良く善戦した。ダブルスも佐藤・本田（札幌藻岩）回戦まで進出し、実力を出し切った。

女子の方はシングルの本田彰子（札幌清田）が2回戦まで進んだものの残り2シングルダブルスとも1回戦で敗退し、全国レベルには及ばない結果に終わった。

雨の中での試合が多く、本田沙織（札幌西1年）も実力を出し切らずに試合を終えてしまった。雨に対するオムニコート優位性が再確認された。

また、札幌の中学を卒業した鈴木貴男（現堀越1年）が優勝した事も北海道選手団にとって喜ばし出来事であった。

（専門委員長 横山 俊之）

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

“絶対に負けられない。全体に勝たなければならない。先輩方が築きあげてきた伝統を自分たちで崩したくない。”という精神的重圧をはねのけて勝ち得た優勝には、特別な思いと喜びがあった。今年の札幌藻岩高校は3年生が2人しかいなかったために、2年生、1年生を中心とした若いチーム構成であった。そのために、チームづくりにもいろいろな苦労があったが、つらく苦しく厳しい練習を、全員で乗り越えて行く度に、少しずつチームにも連帯感が生まれ、チームの絆が強くなっていった。顧問の緒方先生の熱心な指導と、他の方々の御指導のお陰で勝ち得た全道優勝は、我々3年生をはじめ、皆にとって一生忘れる事が出来ない最高の思い出となるであろう。

しかし、我が部の本当の目標はあくまでも“全国大会で勝つ”ということである。今年のインターハイの全国大会は、九州の宮崎県で行われ、北海道とは全く違った気候の中で戦わなくてはならなかった。しかし団体戦ベスト8というすばらしい成績を残すことができたことは、たいへんな喜びである。

今後は、後輩たちへの指導に力を入れ、伝統をしっかり受けついでもらおうと考えている。最後に、お世話になったテニス関係者の方々に深く感謝いたします。

（札幌藻岩高校 主将 伊藤 崇弘）

優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

私の高校生活はテニスで始まり、テニスで終わろうとしています。その中で一番記憶に残る感動的な思い出としてインターハイの全道優勝があります。

私たちは毎日厳しい練習を積み重ねて頑張ってきました。その成果を十分に発揮することができ、目標だった全道優勝を手にすることができました。

この優勝は、レギュラーだけではなく応援してくれた後輩達と一緒に頑張って勝ち取ったものです。1年生は応援には来られなかったのですが、声援が私達の心にしっかりと伝わってきました。

私達のように高校から始めたという集団でも「やればできる」ということがつくづくわかりました。それを奮い立たせてくれたのは先輩達が築いた伝統であり、それを受けつぐことができるように指導してくださった先生の心であると思います。今、しみじみとその重さをかみしめています。

今の私があるのは、素晴らしい仲間がいてくれたから、そして、いつも心を支えてくださった緒方先生がいてくださったからです。先生には、テニスというスポーツでは、技術や体力だけではなく、そこに精神力が加わらなければ勝利にはつながらないのだということも教えていただきました。

私がテニスを通して学んだことは、これから生きていくうえで、とても大切なことばかりでした。3年間清田高校でテニスをしていたことを誇りに思い、仲間との絆を心に刻んでおこうと思います。

(札幌清田高校 副主将 石川 亜希子)

全国高校総体（第82回全国高等学校庭球選手権大会） 宮崎

8月2日～8日

宮崎県総合運動公園庭球場

男子 個人戦シングルス	優勝	鈴木 貴男（堀越）
	第3位	岩渕 聡（柳川）
女子 個人戦シングルス	優勝	田中 由夏（富士見丘）